

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月27日

事業所名 まさき園

職員5名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	0	0	・部屋を変えて安心できる広さで過ごせている
	2	職員の配置数は適切である	4	0	1	0	・配置数は適切であるが支援が必要なお子様が多い
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	0	0	0	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	0	1	0	・業務改善の話合いの場、フィードバックの時間が持ていないので計画的に行っていく ・職員が少ないので比較的話はしやすいと思う
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	0	1	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	0	1	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	0	0	1	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	0	0	・法人でオンライン研修を導入し自主的にも学ぶことができる環境を整備した。今後、研修を踏まえたフィードバックが持てるようにしていく
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	0	0	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	0	0	1	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	0	2	0	・利用されるお子様の年齢層が幅広くなった。今までは高学年のお子様に登園後に活動を開始していたが、活動場所を分けて行えるように遊びの時間(自由時間)を変えて実践していく
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	0	1	・同じ活動を設定する場合でもないように変化を加えてプログラムが固定化しないように配慮している ・曜日によって活動の隔たりを感じる
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	1	0	2	2	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	0	0	1	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	1	0	・ホワイトボードを活用して、活動の分担等を示して周知している
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	2	1	1	・土曜日のサービス提供前に打ち合わせをしているが、毎日活動のフィードバックができていない。重要事項はその都度連絡するようにしている ・その日の変化や、昨日の様子などをその都度細かく話すように意識している
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	0	0	・支援記録システムを活用し記録方法も統一している。モニタリングでは、記録意を振り返ることができている
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	0	0	1	・支援会議を設けて実施している
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4	0	0	1	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0	0	1		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	0	0	・学校との情報共有は紙面で受け取っている。送迎時の対応などは行っていない。お迎え時に学校での様子をお伺いしているが、車面でのお迎えになった場合は細かくお伺いできないことが多い	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている						・医療ケア児の対象はみえないが、緊急時は生活介護事業所と併設しているため、看護師の協力を仰ぐことができる
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	0	0	0		・連携会議などで共有している。まさき園児童発達支援センターから継続して利用されるお子様が多い
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	0	0	1		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0	0	0		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	0	3	2		・事業所主体で年2回親子サロンを計画し体験活動を行っている。その際に地域の方にもご案内をしているが現状参加がない。夏祭りでは、多くの方々で交流する場となっている。行事以外での交流はない
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	0	2	1		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	0	0		・送迎サービスを行っていないため、保護者のお迎えになっている。その点活動の様子や、課題、家庭での過ごし方、困り感を共有することができる
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	0	2	1		・ペアレントトレーニングの研修を受けていない	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	0	1		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	0	0		・送迎サービスを行っていないため、保護者のお迎えになっている。その点活動の様子や、課題、家庭での過ごし方、困り感を共有することができる
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	0	3	1		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	0	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	0	1	1		・情報の発信が弱い
	35	個人情報に十分注意している	5	0	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		0			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5		0			

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3		1	1	保護者には周知できていない
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		0		・年に2回避難訓練を実施し、子どもたちにも避難方法、避難場所がわかるように実践している
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		0		虐待防止委員会を中心にセルフチェック、研修棟を実施している
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4		0	1	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3		1	1	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		0	1	